

牛久：学校周辺に見る自然

第4号 牛久自然観察の森

2020年4月4日発行

＜ 春の訪れ ～④その他の草本～ ＞

皆さん、こんにちは。今回は3月26日、牛久自然観察の森で見られたスマイレ以外の^{そうほん}草本と、そこに
来ていた虫たちの^{しょうがい}紹介です。



タンポポの蜜を吸うハチ(左上)とピロードツリアブ(右上)、キタテハ(左下)、花粉をなめるハナアブの一種(右下)。

黄色の花が、陽射しにまぶしく輝いていました。おなじみのタンポポです。花にはチョウやハチ、
ハナアブなど、いろいろな虫たちが訪れていました。



ヘビイチゴの蜜を吸うピロードツリアブ(左)と、キジムシロの蜜を吸うハチ(右)。

こちらにも、黄色い花。ヘビイチゴやキジムシロにも、小さなハチやピロードツリアブが蜜を吸いに
来ていました。



ムラサキサギゴケ(左)と、頭をもぐらせてその蜜を吸うハチ(右)。

春は黄色の花が目立ちますが、^{むらさき}紫の花も咲いていました。ムラサキサギゴケです。ここにも、小さなハチが蜜を吸いに来ていました。



シソ科のカキドオシ(左)とヒメオドリコソウ(右)。

こちらにも、^{むらさき}紫の花。カキドオシもヒメオドリコソウもシソ科のなかまで、花の形も特徴ありますが、どちらも茎が四角いです。

カタクリは春にだけ姿を現し、毎年2ヶ月程の短い期間に少しずつ栄養をため、発芽後8年目くらいにやっと花を咲かせます。早春に花を咲かせ、5月頃実をつけると地上部は枯れてしまいます。

春の2ヶ月ほどしか、姿を見せないカタクリ。

こちらのニリンソウも早春の花で、カタクリ同様、他の草が茂るころには地上部が枯れ姿が見えなくなるので、スプリング・エフェメラル(春の妖精)などとよばれます。



少しスペースができたので、おまけにヤブレガサ。若い葉が「破れた傘」に似ているのでつけた名です。

【理科支援員：宮内】

早春の花で、他の草が茂るころには地上部を枯らし、姿が見えなくなるニリンソウ(左)。右はヤブレガサ(破れ傘)。